

至急 県政記者クラブ各位

5/3
10:00

5月3日13時
追加情報(2枚目最下段)

提供日 2025/05/03
タイトル 麻しん患者の本県来訪について
担当 健康福祉部 医療局感染症対策課
連絡先 静岡県感染症管理センター長
TEL 054-221-2843



危機管理情報 ～麻しん(はしか)患者が本県を訪れていました～ 接触した可能性がある方は、体調に注意してください！

1 要旨

5月2日に東京都内で麻しん患者が発生し、別添のとおり、東京都が注意喚起しています。

この患者は、下記の公共交通機関を利用して本県に来ており、保健所において患者の疫学調査を実施し、県内の接触者を特定し健康観察を行っています。

患者は、下記公共交通機関以外の利用施設はなく、下記の状況以外で県内における不特定多数の方との接触は確認されていません。接触した可能性がある方は、「2 患者と接触した可能性がある方へ」を参考に、適切な行動をお願いします。

【患者が利用した県内公共交通機関】

4月26日(土曜日)

品川駅(9:04発)

↓
東海道新幹線こだま711号新大阪行 3号車(自由席)

↓
掛川駅(10:34着)

2 患者と接触した可能性がある方へ

- 麻しん患者と接触した場合は、接触後最大21日間、体調に注意してください。
- 発熱、発疹等の症状から「麻しん」が疑われる場合は、必ずマスクを着用し、事前に医療機関に「麻しん患者と同じ新幹線を利用した」等を連絡の上、速やかに受診してください。
- 受診の際は、周囲の方へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

3 麻しんについて

(1) 症状等

潜伏期は通常10～12日間(最大21日間)であり、38℃程度の発熱や咳、鼻汁といった風邪のような症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱と共に発疹が出現します。また、麻しんに伴ってさまざまな合併症がみられ、全体では30%にも達するとされます。肺炎や、頻度は低いものの脳炎の合併例もあり、特にこの二つの合併症は麻しんによる2大死因となり、注意が必要です。

(2) 感染経路等

空気（飛沫核）感染のほか、飛沫や接触感染など様々な経路があります。感染力はきわめて強く、麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）が、日本国内では約85%の人が麻しんの免疫を持っており、このような感染拡大は起こりません。感染力のある期間は、発症1日前から解熱後3日を経過するまでです。

(3) 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

(4) 予防

ワクチンの効果は非常に高く、ワクチン接種を受けた人の95%以上が免疫を獲得します。しかし、接種しても、数%は免疫が獲得できない場合や、獲得した免疫が持続しない場合があります。現在、1歳（第1期）と小学校入学前年度（第2期）に、麻しん・風しんワクチンの定期予防接種を実施しており、予防接種を2回していれば感染するリスクはかなり低下します。麻しんは予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。麻しんの定期予防接種をまだ受けていない子どもは、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。

(5) 麻しん患者の発生状況（単位：人）

※2025年は第17週まで（～4/27の速報値）

年	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)
全国	279	744	10	6	6	28	45	96
静岡県	5	10	1	0	2	2	0	1※

※別紙参照（浜松市報道提供資料）

本日、5月3日のお問い合わせは、
県庁医療局（054-221-2843）にお願いします。

5月7日以降は、感染症管理センター（055-928-7220）に御連絡ください。

【追加情報；5月3日13時】

☆県民からの相談窓口の設置

麻しんの感染に関してご心配のある県民の方からの相談窓口を県感染症管理センター内に設置し、しばらくの間、下記の時間帯にお電話で御相談をお受けします。

時間帯：午前9時～午後5時（5月3日は午後2時～午後5時）

電話番号：055-928-7220

別添：東京都報道提供資料

令和 7 年 5 月 2 日
保 健 医 療 局

麻疹（はしか）患者の発生について

本日、都内で麻疹患者（検査診断例）の発生がありました。

保健所において疫学調査を実施し、接触者の健康観察を実施しています。

また、患者の行動歴を確認したところ、周囲に感染させる可能性のある時期に下記のとおり不特定多数の人が利用する公共交通機関を利用していたことが判明しましたのでお知らせします。

【患者の概要】

性別	年齢	症状	海外 渡航歴	ワクチン 接種歴	発病日
女性	30代	発熱、咳、鼻汁、発疹	有	不明	4月27日

【患者が利用し、不特定多数の方と接触した可能性のある公共交通機関】

4月26日（土曜日）

- ・東海道新幹線　こだま711号　3号車　品川駅から掛川駅
（9：04発　10：34着）

※ 公共交通機関へのお問い合わせは御遠慮ください。

上記日時に当該交通機関を利用された方は、体調に注意し、麻疹を疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡し、麻疹の疑いがあることを伝えてください。受診の際は公共交通機関の利用を控えて医療機関の指示に従って受診してください。

本情報提供は、感染症の拡大防止のために行うものですので、患者及び患者家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

<都民の皆様へ>

- 麻疹は感染力がきわめて強い感染症で、感染すると約10～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現すると言われています。
- 麻疹は予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。
麻疹の定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。

- 特にゴールデンウィーク期間に海外に渡航し、帰国後に発熱や発疹などの麻疹を疑う症状がある場合は、かかりつけ医または医療機関に相談してください。受診の際は、必ず事前に医療機関に麻疹の疑いがあることを連絡の上、公共交通機関の利用を控えてください。

(麻疹に関する基礎知識や予防接種及び相談について、詳細はこちら➡)



(参考) 厚生労働省リーフレット：「麻疹（はしか）」は世界で流行している感染症です。

【出国前】



【帰国後】



【問合せ先】

- 患者発生に関すること
保健医療局感染症対策部防疫課防疫担当

- 検査の技術的部分に関すること
東京都健康安全研究センター微生物部

(参考) 麻しん（はしか）とは

1 麻しんとは

麻しんは、麻しんウイルスによる感染症であり、感染症法上の五類感染症です。

2015年には世界保健機関西太平洋事務局（WPRO）より日本は麻疹排除状態であると認定され、近年の麻疹の発生は輸入症例を端とするものとなります。

世界でも、麻しんの排除（elimination）に向けて、予防接種率の向上等の麻しん対策が強化されていますが、途上国では、いまだに5歳以下の子どもの主な死亡原因となっています。

2 原因と感染経路

病原体は、麻しんウイルス（measles virus）です。

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日前から発疹消失後4日くらいまでとされています。なお、感染力が最も強いのは発疹出現前の期間です。

3 症状

感染力はきわめて強く、麻しんに対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染します。感染しても発症しない不顕性感染はなく、全て発症します。典型的には、約10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。主な症状は、発熱・発疹の他、咳、鼻水、目の充血などです。

また、合併症として、肺炎、中耳炎、稀に、脳炎、失明等があり、肺炎や脳炎は、重症化すると死亡することもあります。一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

4 治療

特別な治療法は無く対症療法が行われます。感染初期であれば、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もあります。

5 予防のポイント

有効な予防法は、麻しん含有ワクチン接種です。

予防接種法に基づく定期予防接種が計2回（1回目：1歳～2歳未満 2回目：小学校入学前の1年間）行われていますので、対象者の方でまだ接種が済んでいない場合は早めの接種をお願いします。

令和5年度接種率 第1期（1歳児）：96.4%

第2期（小学校就学前の1年間）：91.7%

(参考) 都内における麻しん患者発生状況

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
東京都	23	124	2	0	0	10	10	10
全国	279	744	10	6	6	28	45	83

※東京都の2025年は5月2日までの届出数

※全国の2025年は第16週（2025年4月14日～4月20日）までの累積速報値

令和7年3月22日

報道発表

浜松市 健康福祉部 保健所
生活衛生課 感染症対策グループ

TEL：[REDACTED]



麻しん(はしか)患者の発生について

3月21日(金)、浜松市内の医療機関から浜松市保健所に「麻しんの発生届」が提出されました。患者は医療機関による検査の結果、麻しんであることが確定しています。

現在、当該患者の接触者の健康観察を進めており、発症した場合には直ちに受診するようお願いするなど、感染の拡大防止に努めています。

1 患者の概要

年代	性別	居住地	予防接種歴	発生届出日	結果判明日
20歳代	男性	浜松市	2回	3月21日	3月21日

2 経緯など

3月7日(金)	フィリピンから帰国
3月15日(土)	発熱
3月16日(日)	全身の発しん
3月17日(月)	市内医療機関受診
3月21日(金)	市内医療機関の検査で確定(医療機関から発生届が提出) 市保健環境研究所のPCR検査で麻しんウイルス遺伝子が検出 現在、回復

※1 接触者は特定されており、麻しんの感染可能期間(※2)に不特定多数との接触が考えられる施設や、公共交通機関の利用はありません。

※2 麻しんの感染可能期間

症状が出現する1日前から発しん出現後4日目くらいまで(または解熱後3日目くらいまで)

3 市民の皆様へ

渡航歴や患者との接触があり、麻しん(はしか)を疑う症状(発熱・発しん・咳・鼻水・目の充血等)が現れた場合は、必ず事前に医療機関へ連絡し、麻しん(はしか)の疑いがある事を伝えてください。受診の際は公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診をしてください。

麻しん(はしか)は空気感染するなど、感染力が強い疾病です。しかし、予防接種を2回していれば、感染リスクは少なくなります。

渡航を考えている方は、厚生労働省検疫所ホームページ「FORTH(フォース)」で、渡航先の感染症情報などを知ることができますのでご参考にしてください。



